

只今夏バテ中のお題は「持久力」です。日常的には「人や事柄の粘り強さ（ウィキペディア）」を指します。学生時代からさくらを手伝い、挙句に園長として受け継いで10年以上休まず続けてこられたのは、毎日の仕事をとにかく粘って続ける「持久力」のおかげです。これを培ったのはアメリカでの自動車運転でした。誰にも頼らず一人でどこへでも行ける「自立」を目指し、友人達から教わった運転技術や長距離移動の注意点を頼りにどこへ行くにも車・車で、何とか一日に1500キロくらいなら初めての場所でも行けるようになりました。途中で宿泊やレストランなどはもってのほかで、沢山のおにぎり等を助手席に積み上げ、トイレ以外はひたすら走り続けていました。携帯もナビもない時代で、頼りになるのは地図・標識・太陽の位置のみでしたが、いつの間にか「野生のカン」が発達し、見渡す限り車も人もいない土地を延々走っても不安を感じず、日暮れ前には目的地に着いていました。今では暗くなるとナビがあっても通りすがりのパトカーを頼るほど情けない運転ですが、目的に達するまでやめないという「粘着力」は残っていて、毎日に役立っています。

さくらの子ども達にも「粘る力=持久力」を養ってもらいたく、さりとて先のような無茶を伝えるわけにはいかず、試行錯誤の結果たどり着いたのは、大園長が昔から続けてきた「絵本を丁寧に読み聞かせる」と、「安田式の体操」でした。どちらも子ども達が楽しみながら、お話の世界や運動に「熱中」し続けることができます。

0～5歳の頭がもつ吸収力は驚異的で、この2つの方法で培う持久力は、テレビ等さえ見せなければ一生ものとして定着します。卒園児さん達もこの力を活用して毎日を楽しんでいるようです。これから続く長い人生を粘って粘って粘り抜き、「あきらめない」大人として活躍できるよう心より願っています。 園長 山内 香幸